

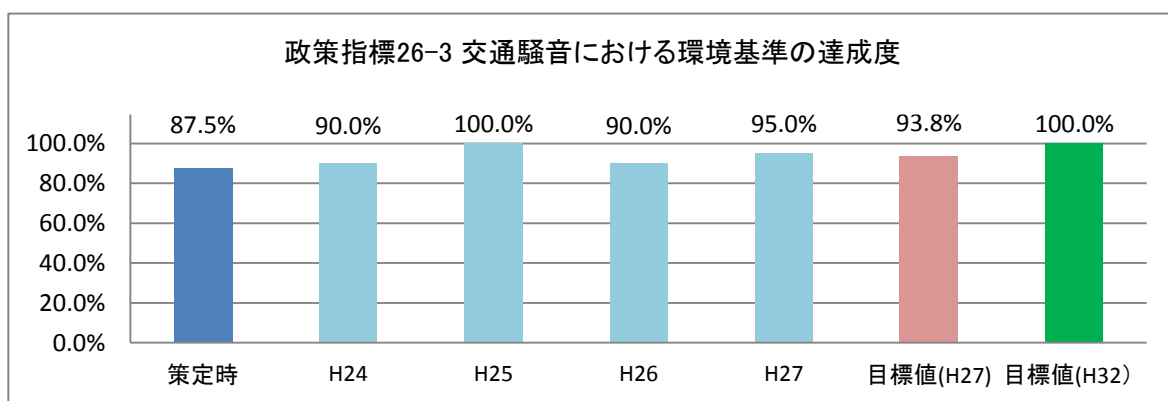
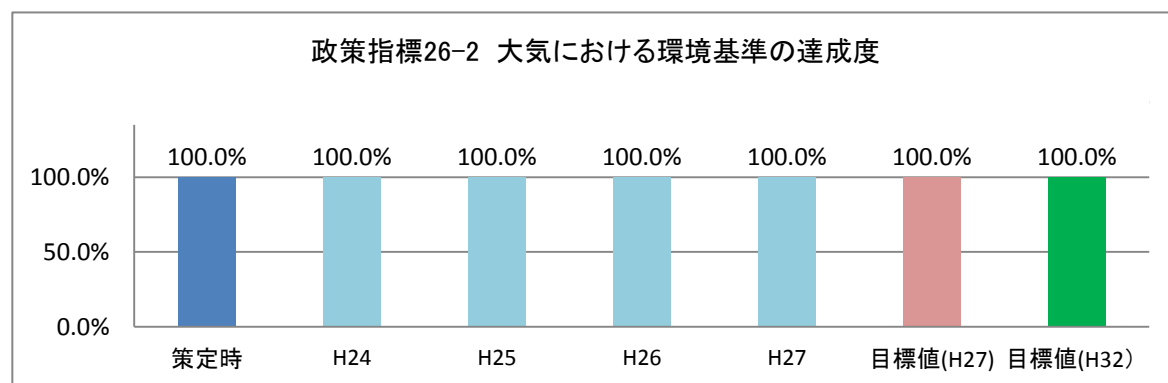
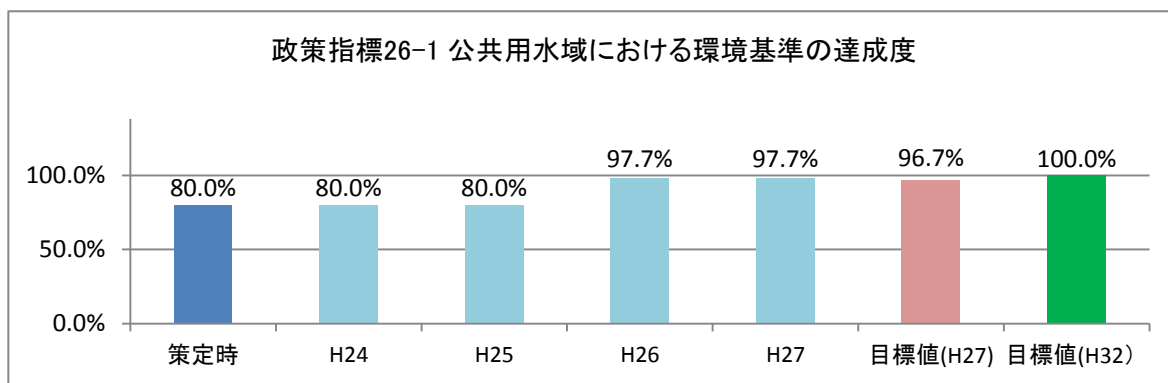
第4章 環境をつなぐ あきしま (循環型社会の形成)

1 とともに保つ (生活環境の維持・向上)

(1) 生活環境

施策の目指す姿

良好な生活環境のもと、市民が安全・安心にいきいきと暮らしています。



施策の体系 ~生活環境~

①生活環境の向上

- A 生活環境対策
- B 航空機騒音対策
- C まちの美化

具体的な事業	基本計画 P174
<b>①生活環境の向上</b>	
<p><b>公害調査測定</b></p> <p>【内容】①自動車交通騒音測定 ②燃料分析調査（使用料の提出）③大気調査（年2回）④ダイオキシン類調査（年2回）⑤空間放射線量測定（市内観測・毎月/市役所西・毎日）⑥臭気測定（随時）⑦アスベスト環境濃度測定（随時）を実施し、継続して市民の生活環境を注視しながら、必要に応じて適切な指導を行った。</p> <p>【効果】生活環境の現状を把握し、環境被害の軽減と未然防止がはかられた。</p>	
<p><b>航空機騒音調査</b></p> <p>【内容】横田基地に隣接し、飛行コースの直下にあるため、航空機騒音などの影響を受けている。①固定調査（常設＝市役所庁舎屋上・拝島第二小学校）②移動調査（3ヶ月単位で移動測定＝拝島第三小学校・市立昭和会館・市民会館・拝島第四小学校）を実施し、騒音などの実態を把握した。</p> <p>【効果】基地周辺自治体と連携しながら関係機関に要請する際の具体的資料とすることで、航空機騒音の軽減や住宅防音工事の対象区域の拡大、民生安定対策の充実がはかられた。</p>	
<p><b>あきしま街なみクリーンアクション等環境保全啓発事業</b></p> <p>【内容】実行委員会を組織し、市内クリーン運動（84団体、2,983人）や事業者によるミニクリーン運動（10事業所）、喫煙マナーアップキャンペーン（4回）などを実施する。また、駅周辺など、人の往来の多い場所や苦情のある場所に啓発看板（303枚）、路面シート（10ヶ所）を設置する。（カッコ内は平成27年度実績）</p> <p>【効果】快適な生活環境を確保するため、市民、事業者、市が一体となって環境美化意識の高揚に努めながら、清潔で美しいまちづくりを推進した。</p>	
<p><b>アダプト制度事業</b></p> <p>【内容】道路・公園などを定期的に美化・清掃するボランティア団体（3人以上で構成）が登録し、ボランティア保険への加入支援のほか、清掃道具やボランティア袋（ゴミ収集袋）の提供などで活動を支援している。</p> <p>【効果】平成28年4月現在、40団体550人以上が、きれいなまちを目指し活躍中である。</p>	
<p><b>違反広告物撤去事業</b></p> <p>【内容】市・警察・違反広告物撤去協力員が道路上の違反広告物を撤去。平成27年度の撤去数は5,008枚。</p> <p>【効果】市民と行政が一体となって、美しい景観の維持・向上がはかられた。</p>	
<p><b>飼い主のいない猫対策事業</b></p> <p>【内容】地域猫活動を支援するため、飼い主のいない猫の不妊・去勢手術を施した場合に補助金を支給する。</p> <p>【効果】不幸な猫を減らすことにより、フン公害や無責任な餌やりに対して動物の愛護と適正な飼育の普及がはかられた。</p>	

**内部評価**

良好な生活環境のもと、市民が安全・安心にいきいきと暮らしていくため、各種公害調査測定や航空機騒音調査により現状把握に努めるとともに、市民と協働してまちぐるみで美化運動を推進しながら、ごみの不法投棄やたばこの吸殻のポイ捨て、犬・猫のフン公害などへの対策に取り組んでいる。

また、本市は市域における市街地の半分近くが米軍横田基地の飛行直下に位置していることから、半世紀余に亘り航空機騒音被害に晒されており、これまでも国や米側に対して、徹底した安全対策、周辺環境への配慮、負担軽減策を要請してきたところである。今後も引き続き、基地周辺5市1町連絡会の枠組みを基本とし、市議会の協力も得る中で、要請を重ね市民が安全・安心に暮らしていく基盤の確保に努めていく。

今後は、各種公害や航空機騒音測定体制のさらなる整備、街並みクリーンアクションなど、環境保全啓発事業のさらなる推進をはかりながら、引き続き、生活環境の維持・向上に努めていく必要がある。

**評価**

喫煙マナーアップキャンペーンを実施しているが、市民や市民団体、また企業等の協力もあって、たばこのポイ捨ては激減しており、その意識啓発は定着してきているものと評価できる。

また、あきしま街なみクリーンアクションなど、市内のクリーン運動を市民はもとより、企業や各種団体の積極的な参加により、まちの美化に対する意識醸成がはかられ、市の取り組みは成功している。今後も各種イベントをとおし、さらなる意識改革を進められたい。

また、航空機騒音は、市民にとって、日常生活における安らぎを脅かす深刻な問題であることから、今後も引き続き国などへの要請を通じて、徹底した安全対策、周辺環境への配慮、負担軽減策を講じるよう求めている。

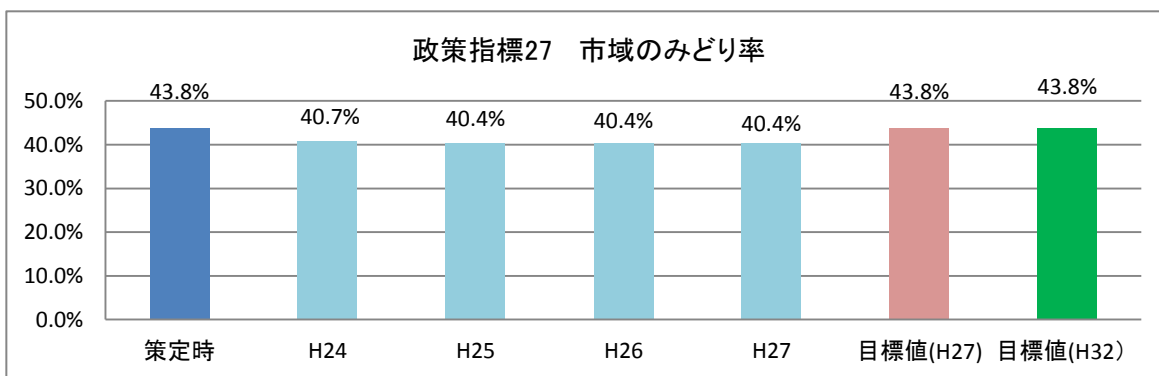
2 水と緑を守る (水と緑の保全・再生)

(1) 自然環境

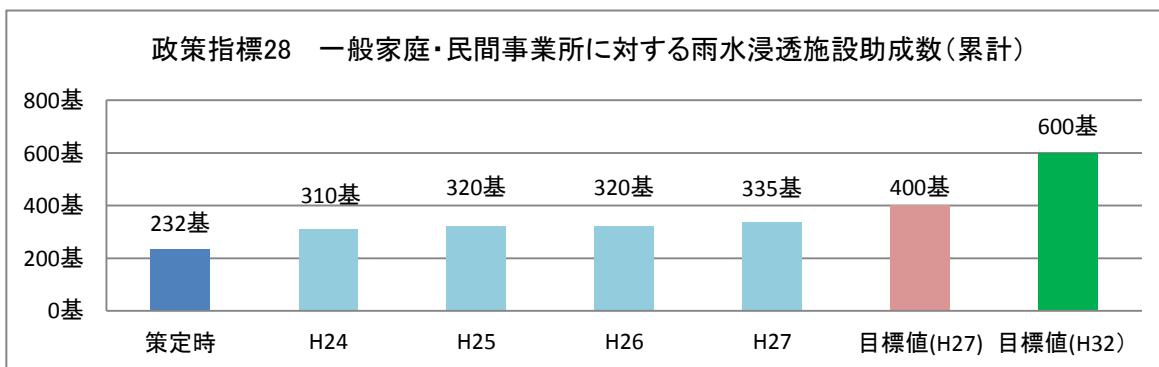
施策の目指す姿

市民、団体、事業者、行政の協働により、緑が保全されるとともに、まちのなかに緑や花が広がり、さわやかなまちづくりが進んでいます。

また、用水路沿いなどには良好な水辺景観が形成され、市民の憩いの場となっています。



※ 計画策定時のみどり率 43.8% (平成 15 年に東京都が調査した結果を基にして、平成 22 年度の水と緑の基本計画策定時に市で算出した率) の現状維持を目標値として掲げているが、土地の開発による緑の減少や農地の減少により、何とか 40% を維持している現状にある。



※ 開発協議での雨水浸透施設の設置は進んでいるものの、一般家庭・民間事業所における雨水浸透施設助成をホームページ及び広報により PR しているが、現状に留まっている。

施策の体系 ~自然環境~	
<p>①自然環境の保全</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A 自然保護意識の普及</li> <li>B 水と緑の保全</li> <li>C 生物多様性の保全</li> </ul> <p>②水辺、緑地の整備と活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A 水辺環境の整備</li> <li>B 緑地の保全</li> </ul>	<p>③緑のまちづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>A 公共施設の緑化</li> <li>B 民間施設の緑化</li> <li>C 緑化運動の推進</li> </ul>

具体的な事業	基本計画 P179
<b>①自然環境の保全</b>	
<b>雨水浸透施設設置助成制度</b>	
【内容】宅地内に降った雨を、地下に浸透させるための施設設置に伴う補助制度。平成23年度から、103基を設置した。	
【効果】宅地内からの雨水流出を抑制することにより、道路などの浸水を軽減することができる。 また、政策指標目標値には達しなかったが、雨水を地下に浸透させることにより循環型社会の形成が少しずつはかられている。	
<b>水の保全事業</b>	
【内容】さまざまな生物が生息できるように、用水路などの水辺の環境保全に取り組んだ。	
【効果】毎年、ホタルが自然循環的に発生するなど、水生生物が生息しやすい自然環境の整備がはかられた。	
<b>崖線緑地の保全</b>	
【内容】残された唯一まとまった緑である崖線緑地（中神町一丁目・二丁目、大神町四丁目及び福島町一丁目）の樹木剪定を行うとともに、東京都及び8市と連携して多摩川由来の崖線緑地の保全に取り組んだ。	
【効果】萌芽更新により緑の質の向上などがはかられた。	
<b>樹木・樹林保存事業</b>	
【内容】保存樹木・樹林などの指定と剪定費用の補助を行った。	
【効果】市内に残された貴重な樹林地や緑地について、市民の協力を得ながらその保存がはかられた。	
<b>森林教室</b>	
【内容】市民を公募し、森林インストラクターの協力により奥多摩・昭島市民の森の植樹や下草刈などを行った。（年2回）	
【効果】荒廃しつつある多摩の森林を保全し、地球温暖化防止、水源の涵養など、森林の持つ多面的な機能の維持増進とともに、自然保護意識の普及、啓発がはかられた。	
<b>生物多様性の保全</b>	
【内容】生物多様性地域戦略策定に向け研究会に参加するとともに、環境学習講座のテーマとした。	
【効果】生物多様性の恵みを持続的に享受し、次世代に引き継ぐための地域戦略策定に向け、作業を進めた。	
<b>②水辺、緑地の整備と活用</b>	
<b>多摩川の緑地活用と堤防整備</b>	
【内容】多摩川河川敷を自然公園や運動公園として活用するとともに、新たな堤防整備の際には河川管理者と協議を行い、遊歩道や自転車通路の実現をはかった。	
【効果】多摩川が、市民憩いの場や自然と触れ合えるレクリエーション空間として、整備、推進された。	
<b>用水路樹木剪定等</b>	
【内容】用水路（郷地町二丁目、福島町二丁目、中神町二丁目、宮沢町二丁目及び拝島町四丁目）樹木の剪定、伐採を行った。	
【効果】用水路の適正な維持管理を推進し、市民に親しまれる水辺環境の整備がはかられた。	
<b>昭島水辺の学校</b>	
【内容】地域の子どもたちに向けてカヌー教室や救急救命訓練などの開催、小学校の総合的な学習の時間における学びの場の提供を行った。	
【効果】地域と一体となって、子どもたちに自然体験の場を提供した。	
<b>③緑のまちづくり</b>	
<b>校庭芝生化事業</b>	
【内容】芝生の管理に当たっては、児童、保護者、地域住民との協働を基本とし、平成28年4月1日現在で14校の校庭に13,100㎡の芝生化を実施した。	
【効果】特に運動能力に課題のある児童の体力向上がはかられるとともに、ヒートアイランド対策及び緑化対策に資するとともに、運動場の砂埃防止がはかられた。	

③緑のまちづくり
<p><b>小・中学校壁面緑化事業</b></p> <p>【内容】壁面緑化を、平成27年度は9校で実施した。</p> <p>【効果】緑化対策や植物の観察を通じた理科学習に資するとともに直射日光を遮ることで冷房の使用抑制につながった。</p>
<p><b>昭島都市計画道路3・4・2号整備事業</b></p> <p>【内容】拝島駅南口駅前広場 芝張工 300 m<sup>2</sup>、植栽 9本</p> <p>【効果】人々がふれあい憩う、目に見える緑の空間となった。</p>
<p><b>花の応援事業</b></p> <p>【内容】自転車等駐車場の花壇において、花植えを実施した。平成27年度は6月と11月に実施した。</p> <p>【効果】緑と花のまちづくりの推進がはかられた。</p>
<p><b>緑化推進事業</b></p> <p>【内容】緑化推進協力員や緑のボランティアを活用し、苗木販売や花壇やプランターへの花植えなど市民参加による緑化を進めた。</p> <p>【効果】市民の理解と協力のもとに緑を保全し、緑化を推進することにより、緑と調和した良好な街並みの形成がはかられた。</p>
<p><b>グリーンカーテン講習会</b></p> <p>【内容】あきしま環境緑花フェスティバルにおいて、グリーンカーテン講習会を午前午後それぞれ1回開催した。</p> <p>【効果】平成27年度は合計34人参加。環境に優しい生活への講習を通じて、市民ぐるみで緑と花のまちづくりの推進がはかられた。</p>

内部評価
<p>本市は、水や緑の環境に恵まれ、特に深層地下水100%の水道水を可能とする地下水は市民の宝である。現代を生きる我々にとって、この宝を将来世代にも引き継いで行くことは責務である。</p> <p>これまでにも、水と緑にふれあえる個性豊かなまちづくりを目指し、水と緑の基本計画の着実な推進をはかりながら、緑地の保全や水辺環境の整備、雨水の浸透施設設置における地下水の保全、緑化推進事業などに取り組んでいる。</p> <p>政策指標「市域のみどり率」については、平成27年度現状値40.4%（同目標値43.8%）となっているが、これは、土地の開発による緑の減少や農地の減少によるものであり、今後は、公共施設の緑化、街路樹の増加、苗木の配布や緑化推進補助事業、保存樹林などの剪定費用補助、崖線の公有化などの推進をはかりながら、緑の量の確保に努めていく必要がある。</p> <p>また「一般家庭・民間事業所に対する雨水浸透施設設置助成」についても、今後さらなるPRに努め設置数の向上に努めていく必要がある。</p>

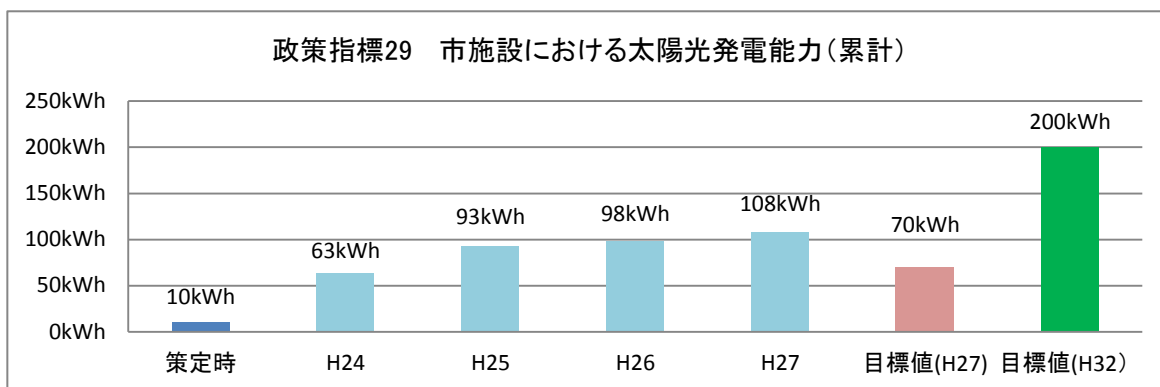
評価
<p>施策の目指す姿にもあるとおり、用水路沿いなどの良好な水辺景観が形成されることにより、ホテルが生息できる環境が整うなど、市民の憩いの場として活用され、自然保護意識の普及にもつながり、自然を大切にすることを育むことができています。引き続き、水と緑を大切にすることを推進されたい。</p> <p>また、内部評価にもあるとおり、深層地下水100%の水道水は本市の宝であり、将来世代に引き継ぐことは我々世代の責務である。このことを基本に、施策の展開をはかることを期待する。</p>

### 3 未来につなぐ（地球環境の保全）

#### （1）地球環境

##### 施策の目指す姿

地球環境に配慮したやさしいまちづくりが進められています。



#### 施策の体系 ～地球環境～

##### ①地球環境の保全

- A 地球環境保全意識の啓発
- B 地球温暖化対策の推進

#### 具体的な事業

基本計画 P185

##### ①地球環境の保全

###### 環境緑花フェスティバルの開催

【内容】毎年1回、市役所駐車場及び市民ロビーなどで開催。環境講演会、エコサイエンスショー、科学教室、講習会、環境クイズなどを実施する。

【効果】平成27年度は来場者12,200人、参加団体56団体。水や緑を主なテーマとして、地球環境保全意識の啓発がはかられた。

###### 省エネファミリー制度・キッズISO

【内容】家庭の地球温暖化防止への取り組みである省エネファミリー制度について、自治会の協力を得て省エネナビ導入などにより拡充する取り組みを試行実施する。また、子どもたちの環境意識の向上を目指し、キッズISOプログラムを普及拡大する。

【効果】平成27年度末で省エネファミリーとして389世帯が登録、キッズISOは市内4小学校で実施。節水や節電など、市民や児童の自主的な活動への支援を通じ、環境に配慮した消費生活の推進がはかられた。

###### 昭島市環境配慮事業者ネットワーク

【内容】毎年、総会（5月）、全体会議（2回）、工場見学会、市イベントへの出展などを実施する。

【効果】市内の40事業者が環境負荷低減に向けた取り組みの情報交換などを通じ、各々の取り組みのさらなる向上がはかられた。

###### 環境基本計画の改定

【内容】平成14年度に策定以来、平成23年度に中間年度を迎えたことから、計画を見直し、改定を行った。

【効果】平成23年度末に改定し、市域全体での地球温暖化対策の内包などにより環境を取り巻く情勢への対応がはかられた。

<b>①地球環境の保全</b>
<p><b>住宅用新エネルギー機器等普及促進補助</b></p> <p>【内容】家庭における太陽光発電システム、HEMS、燃料・蓄電池などの導入に対して補助を行った。</p> <p>【効果】平成27年度は60家庭、合計3,929千円を補助。家庭におけるエネルギー利用の効率化を推進する機器の普及がはかられた。</p>
<p><b>エコ通勤デーの実施</b></p> <p>【内容】庁内放送により全職員に対し周知を行う中で、マイカーでの通勤を控えるエコ通勤デーを月2回実施。</p> <p>【効果】庁内放送により地球温暖化対策の取り組みを周知することにより、地球環境保全に対する職員の意識の醸成がはかられた。</p>
<p><b>公共施設における太陽光発電能力の向上</b></p> <p>【内容】市の公共施設における太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入を進めた。また改修、解体工事においては発生した建設副産物について資源の再利用化に努めた。</p> <p>【効果】目標値70kwhを上回り、平成27年度の太陽光発電能力は123kwhとなり、再生可能エネルギーの有効活用の促進がはかられた。</p>
<p><b>カーボンオフセット事業</b></p> <p>【内容】友好都市である岩手県岩泉町の森林を持続的に整備することによりCO<sub>2</sub>吸収量を増加させるため、カーボンオフセット協定を締結する。また、毎年開催している環境緑花フェスティバルで排出されるCO<sub>2</sub>についてもカーボンオフセットを実施した。</p> <p>【効果】平成26年度に480t-CO<sub>2</sub>のカーボンオフセットを実施し、都市自治体として環境問題・地球温暖化に対する責任の一端を担えた。</p>
<p><b>奥多摩・昭島市民の森</b></p> <p>【内容】平成16年度に奥多摩町に開設した「奥多摩・昭島市民の森」(1.44ha)について、森林インストラクターの協力を得て水源林について学ぶ環境学習の場として森林教室(年2回)を実施し、下草刈りや樹木剪定などを行った。</p> <p>【効果】平成27年度で開設後11年が経過し、1.44haによる温室効果ガス吸収量は年間100t-CO<sub>2</sub>程度と計算される。また、森林教室には、平成27年度までに延べ925人の市民が参加し、緑を守るために必要な知識や技能を学びながら地球環境保全意識の啓発がはかられた。</p>

<b>内部評価</b>
<p>地球環境に配慮したやさしいまちづくりを進めていくため、環境保全啓発事業や環境学習、省資源・省エネルギーの推進などに取り組んできた。平成23年度末改定の新たな環境基本計画においては、地球温暖化対策や東日本大震災後の環境を取り巻く情勢への対応がはかられ、持続可能な社会の実現に向けた取り組みに重点が置かれるところとなっている。</p> <p>今後は、環境緑花フェスティバルなどの啓発事業、環境配慮事業者ネットワーク、省エネファミリー制度などの充実をはかりながら、市民や事業者による地球環境を意識した足下からの小さな積み重ねが日々実践されていくように努めていく必要がある。</p> <p>また、継続してエコ通勤デーを実施することにより、着実に職員の意識の醸成ははかられている。一方、取り組みが形骸化している状況にもあり、新たな取り組み内容を検討し実施することも必要である。</p>



**評価**

環境緑花フェスティバルは講演会、エコサイエンスショー、科学教室、講習会、環境クイズなど、様々な学習機会を提供し、子どもたちが環境の大切さを学ぶ機会としても大いに役立っている。市内事業者に対する施策や住宅用新エネルギー機器等の普及のための補助事業、公共施設においても太陽光発電を導入するなど、地球環境の保全に努めている。

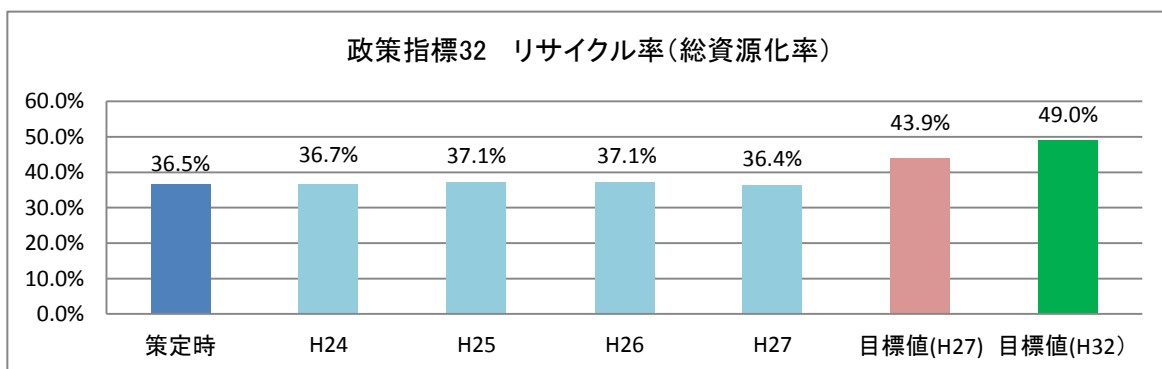
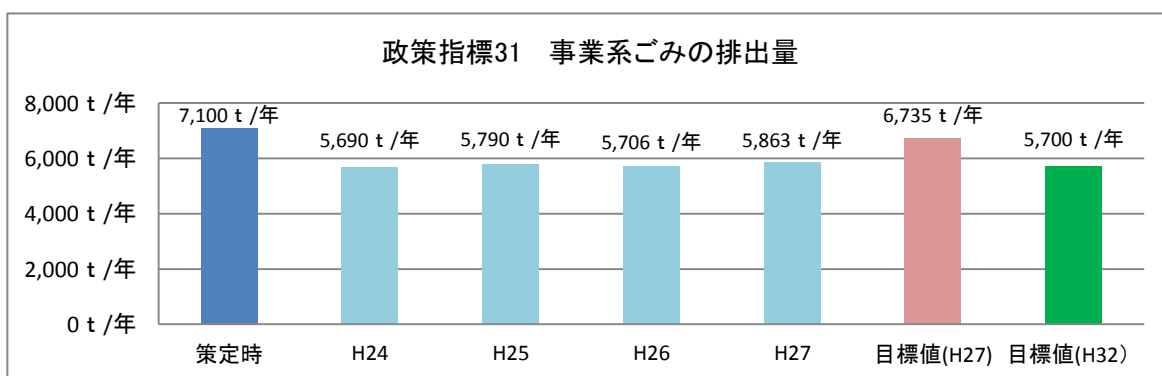
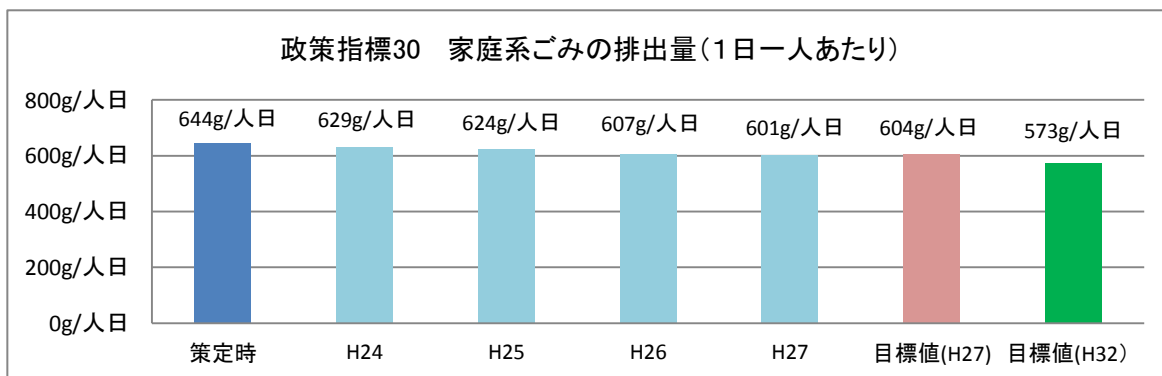
また、奥多摩や岩泉町と連携した取り組みを実施するなど、地球規模で考えた取り組みが進められている。

今後も引き続き、限りある環境資源を将来世代へ引き継ぐことを基本とし、意識啓発をはじめとする施策の展開をはかられたい。

(2) ごみ処理

施策の目指す姿

ごみ処理に対する市民の意識が高まり、市民、団体、事業者、行政がそれぞれの責任と役割を十分に認識し、相互の連携と協働により、ごみの減量とリサイクルが推進されています。



※ 平成18年7月から東京たま広域資源循環組合による焼却灰のエコセメント化事業が稼働したことにより大幅に上昇し、平成22年度までは上昇傾向が続き37.1%となったが、その後は、全体のごみの量の減少に伴う資源の回収量の減少、資源物自体の軽量化などの影響により、ほぼ同じ率で推移している。

施策の体系 ～ごみ処理～	
①ごみの減量とリサイクルの推進	②循環型ごみ処理体制の推進
A ごみの減量化	A 収集・運搬体制
B リサイクルの推進	B 中間処理体制
	C 最終処分体制

具体的な事業	基本計画 P187
①ごみの減量とリサイクルの推進	
<b>ごみの減量</b> 【内容】第三次昭島市一般廃棄物処理基本計画に沿い、家庭ごみ及び事業系ごみを減量する。 【効果】平成27年度の達成状況は、家庭ごみ601g/人・日（目標値604g/人・日）、事業系ごみ5,863t/年（目標値6,735t/年）で、目標を上回って減量化を達成した。	
<b>フリーマーケット・リサイクル品の無料提供</b> 【内容】環境コミュニケーションセンターでフリーマーケット及びリサイクル品の無料提供を実施した。 【効果】平成27年度は、フリーマーケットが開催回数10回、出店数411店舗、延べ来場者数5,363人、また、リサイクル品の無料提供が開催回数14回、出品数534品、申込受付数1,771件、提供数424品であり、多くの市民に利用されたことにより、ごみ減量に対する意識の向上がはかられた。	
<b>コンポスト・電動式生ごみ処理機購入費補助制度</b> 【内容】市民の自主的なごみ減量に対する支援のため、コンポスト及び電動式生ごみ処理機の購入費に対する補助を行った。 【効果】平成27年度は、コンポスト1基、ダンボールコンポスト4基、電動式生ごみ処理機16基に対して補助を行い、生ごみの減量化が推進された。	
<b>廃棄物減量等推進員制度</b> 【内容】廃棄物減量等推進員を委嘱し、ごみの適正処理や減量のための市の施策への協力を依頼した。 【効果】あきしま環境緑花フェスティバルでの分別指導や環境コミュニケーションセンターでのフリーマーケットへの協力活動などにより、市のごみ減量施策が推進された。	
<b>リサイクルの推進</b> 【内容】第三次昭島市一般廃棄物処理基本計画に沿い、リサイクルを推進する。 【効果】平成27年度のリサイクル率達成状況は、36.4%（目標値43.9%）となった。容器包装リサイクル法によるプラスチック製容器包装及びペットボトルの処理については、高品質（Aランク）を維持している。	
<b>事業系ごみの分別の徹底、資源化の推進</b> 【内容】事業用大規模建築物の所有者に対し「廃棄物の減量及び再利用に関する計画」の作成及び実施を指導するとともに、収集運搬許可業者が搬入する事業系ごみに対し搬入時検査を実施し、分別の徹底、資源化を指導した。 【効果】平成27年度の事業系ごみ排出量は5,863t/年で、第三次昭島市一般廃棄物処理基本計画の目標値6,735t/年を上回って減量化を達成した。	
<b>資源回収奨励金制度</b> 【内容】市民団体による資源（有価物）の回収に対して奨励金を交付した。 【効果】平成27年度は、107団体に493件、総額15,513千円を交付し、地域におけるリサイクルの推進がはかられた。	
②循環型ごみ処理体制の推進	
<b>低公害収集車の導入</b> 【内容】収集車にCNG車を積極的に導入した。 【効果】市及び収集委託業者所有の収集車は、全40台中31台がCNG車となり、環境負荷の低減がはかられた。	
<b>新たな可燃ごみ処理施設の整備計画</b> 【内容】清掃センター焼却炉の延命化後の将来展望について検討を進めた。 【効果】広域処理移行への方向性を決定した。	

## ②循環型ごみ処理体制の推進

### 最終処分場延命化への取り組み

【内容】東京たま広域資源循環組合と協力し、最終処分場延命化に取り組んだ。

【効果】ごみの減量化に取り組むとともに、二ツ塚最終処分場へ搬出した焼却灰は全量をエコセメント化し、最終処分場の延命化がはかられた。

## 内部評価

第3次一般廃棄物処理基本計画に基づき、ごみの減量とリサイクルの推進、循環型ごみ処理体制の整備に取り組み、特に、家庭系ごみ、事業系ごみの排出量については、順調に減量化がはかられている。同計画については、中間年度を迎えた平成26年度に見直しを行い、平成37年度を目標年度とした第4次一般廃棄物処理基本計画を策定し、現在、さらなるごみ処理施策の推進に努めているところである。

政策指標「リサイクル率(総資源化率)」については、平成27年度現状値36.4%(同目標値43.9%)となっているが、これは、平成18年度から東京たま広域資源循環組合による焼却灰のエコセメント化事業が稼働したことによる大幅な率上昇を見た後、全体のごみの量の減少に伴う資源の回収量の減少、資源物自体の軽量化などの影響により、ほぼ同じ率に留まっているものと考えられる。

今後は、さらなるごみの減量化に努めながら、分別の徹底や新たな資源回収物の検討などにより資源化を進めていく必要がある。

また、可燃ごみ焼却施設の広域処理移行についても、着実に進めていく必要がある。

## 評価

ゴミの減量やリサイクル活動は進んでおり、市民のごみ分別に対する意識は高い。家庭系ごみの排出量も順調に減っている。フリーマーケットの開催やリサイクル品の無料提供は多くの市民に利用され、再使用することによる循環型社会への貢献度は非常に高い。今後もごみ減量とリサイクルの促進の市民意識をさらに高めるよう工夫を凝らし、他市町村の模範となるような取り組みを進められたい。

また、新たな可燃ごみ処理の手法について、多角的に検討がなされてきたようであるが、より効果的、効率的な処理方法について、将来を見据え、着実に進められたい。なお、それまでの間において、一定の時間を要する必要がある場合には、現行施設の安定稼働を可能とするよう、必要最小限の維持管理に努めていただきたい。